

条幅部自由参考

5月28日正午必着

明石春浦先生書



耕雲釣月 (瞿法賜)

雲にたがやし、月につりす。また釣月耕雲ともいう。耕は耕に同じ悠々自適の境地。

明石幸子書



春還草閣梅先動、月滿虛庭雪未消 (王守仁)

春が再び草閣に帰り来て梅は先ず綻びそうな気配を示し、月は人なき庭に満ち雪はまだとけない。

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。



三浦士岳先生書

千山夜静香林月。萬壑涼生竹閣風。(查克建)

夏の山荘。

詠高梧賦脩竹(王僧孺)

高梧に詠じ脩竹に賦す

梧桐の下に詠じたり竹林に賦したりする。

曉河没高棟斜月半空庭
窓中度落葉簾外隔飛螢

(何遜)

曉河高棟に没し 斜月空庭に半なり
窓中に落葉度り 簾外飛螢を隔つ

あけがたの天の河は高い棟にかくれ、かたむいた月は人影もない庭になかばさしこんでいる。窓の中に落葉がはいり、簾を隔て螢が飛びかう。

下第寓居崇聖寺(許渾)

下第して崇聖寺に寓居す 許渾

懷玉泣京華 舊山歸路賒

玉を懷いて 京華に泣く 旧山 帰路賒かなり

靜依禪客院 幽學野人家

靜は禪客の院に依り 幽は野人の家を学ぶ

林晚烏爭樹 園春蝶護花

林は晩れて 烏は樹を争い 園は春にして 蝶は花を護る

東門有閑地 誰種邵平瓜

東門に閑地有り 誰か邵平の瓜を種えん

思ふらく人の誠と王冠と野に咲く百合といづれ尊き (中原 綾子)

半紙部規定課題A

5月28日正午必着

經年 別此 易

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

5月28日正午必着

行書

別此易
經年

隸書

別此易
經年

明石春浦先生書

草書

別此易
經年

行草書

別此易
經年

夜になって、楚の家々の盛に煙たちのぼる地域にはいった。煙の中に、人々はまだ眠らずにいる。淮水の岸辺の眺望を極めつくし、舟中に坐したまま酒樓の前についた。灯火の影は半ば水を照らし、あたりの船の中からしきりに箏のしらべがきこえる。流れに乗って東をさして行こうとするが、この地を離れて行けば、たちまちに年月が過ぎることであろう。

夜泊淮陰 項斯

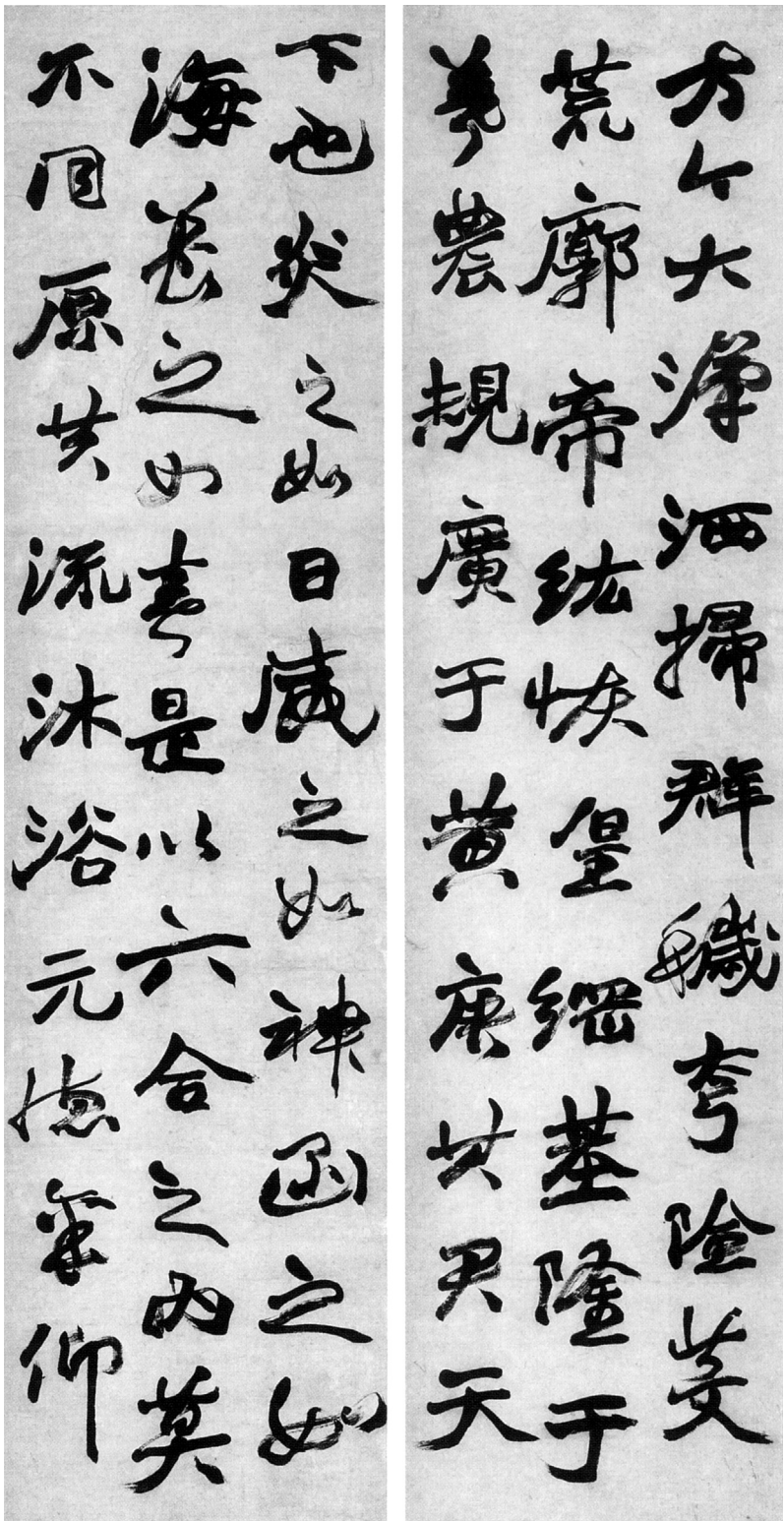
夜入楚家煙
煙中人未眠
望來淮岸盡
坐到酒樓前
燈影半臨水
箏聲多在船
乘流向東去
別此易經年

夜淮陰に泊す 項斯

夜 楚家の煙に入る
煙中 人未だ眠らず
望み來つて 淮岸尽き
坐して到る 酒樓の前
燈影 半ば水に臨み
箏聲 多く船に在り
流れに乗じて東に向かつて
去る

朝日新聞社刊
「三体詩」下より

條幅部半紙部臨書課題



方今大澤洒掃群穢。夸險芟荒。廓帝紘恢皇綏。基隆于義農。規廣于黃唐。其君天下也。炎之如日。威之如神。函之如海。養之如春。是以六合之內。莫不同原共流。沐浴元德。稟仰（太和）。



莫不同原共流



天下

清 趙之謙・行書班固答賓戲文四屏

道光九年（一八二九）七月九日浙江省紹興に生まれ、光緒十年（一八八四）五十六歳で没した。はじめ字を益甫、冷君と号し、三十代になって字を撫叔、悲盦・无悶・愍寮などと号した。

町の有力な商家の二男として生まれ、幼い頃から学問に目覚め、その才能を發揮していたが、家の没落、妻子の死という悲劇に見舞われた。科挙の推薦試験に合格していた彼は、三十五歳の時に進士の試験を受ける為に北京に上ったが、そこで出会った多くの人々と豊富な金石書画に触れ、すぐさまその道にのめり込んでいった。応試は二の次になり、五度の受験も結局及第することは出来なかった。彼の才能は書画篆刻に發揮されたが、書は晩年に熟境に到った。応試に必須であった顔法に始まり、北魏の刻石に触発され、さらに包世臣の書論における逆入平出の法に心酔し、独自の解釈を加えて彼の書法は完成していった。

この書は、杭州に寓居し家族を養うため盛んに書画を制作していた頃の作である。（春濤）

5月28日正午必着

教育部毛筆



老しにに舗せ

中学一年

雨宮春聲先生書



俊しゅん英えい

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



か

おく

小学五年

榎戸春龍先生書



けい

かい

小学六年

横川春川先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

5月28日正午必着



まる
丸

た
太

小学三年

藤田幸春先生書



がく
学

せい
生

小学四年

細谷春誠先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

い も 小学一年・幼年



森戸春濤書

上 下 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

教育部硬筆

ペン字部

うの中でおよぐ
 小さな金魚が水そ

小学五年

めをノートに整理した
 今までの学習のまと

小学六年

緑の森が見えます
 部屋の窓から美しい

中学

あたまを雲の上に出し
 四方の山を見おろして

一般(級位)

風をいたみ 岩うつ波のおれのみくだけでもを思ふころかな(源重之)
 つみぐだけチモのを思ふころかな
 空をいたみ 岩うつ波のおれ

一般(段位)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
 また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

ふ	た
つ	の
の	し
	い
え	
ほ	ど
ん	う

幼年

も	ひ
ら	よ
い	こ
ま	を
し	
た	ニ
	わ

小学一年

こ	め
う	だ
は	か
	の
川	
の	が
中	つ

小学二年

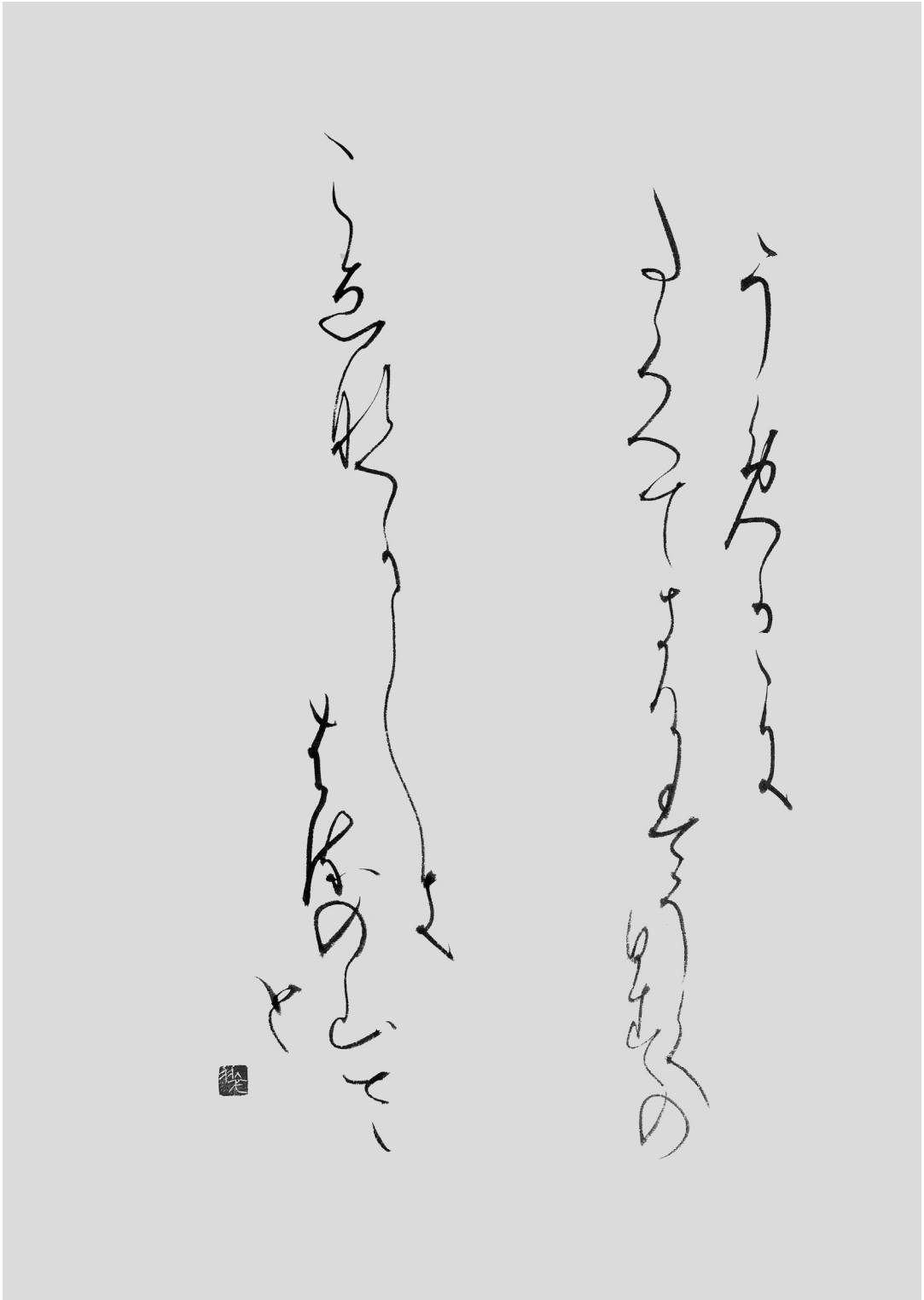
か	森
わ	で
い	見
い	つ
子	け
り	た
す	

小学三年

よ	五
ぐ	月
こ	の
い	空
の	に
ほ	高
り	く
	お

小学四年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。



松永翠舟先生書

うめが
免可
に
多
たぐへて
支介
盤
うぐ
日春
ひすの
こえ
惠那
可
支者
はる
山
ぎ
と
(西行)